

# 錦糸町わくわく通信

2019.04  
第27号

●お問合せ●  
東都よみうり新聞社  
TEL.03-6663-9010

## ゴールデンウィークから初夏へ

### 錦糸町のイベント特集

#### 東武ホテルレバント東京

#### 「体感する絵本の世界」& 「ロビーラウンジコンサート」

音楽朗読ユニットKatoShoji(加藤亜祐美・小路奈央子)さん出演によるオリジナル楽曲と言葉のパフォーマンス。また「子どもの日」にちなみ「すみだ少年少女合唱団CJ(コーン・ジャスティス)」が美しい歌声を響かせる。2階「スーパーダイニング ヴェルデュール」では、「新緑の山形フェア」開催中。山形県産の食材を使った名物料理も登場する。

【日時】5月5日(日) 第1部：音楽と朗読(午後1時30分～2時)  
第2部：ロビーラウンジコンサート(午後2時30分～3時10分)

【会場】1階ロビーラウンジ「クリスタルムーブメント」  
※喫茶利用により着席で鑑賞できます

【問い合わせ】東武ホテルレバント東京企画室  
Tel.03-5611-5580



#### アルカキット錦糸町

#### 「KIT 17th Thanks! Anniversary」

アルカキット錦糸町は皆様に愛されて17周年!感謝の気持ちを込めてお得なセールや楽しいイベントを開催する。

☆パンフェア 5月1日(水)～12日(日)

1階特設会場で美味しいパンを販売

☆ポイントアップデー 5月3日(金)～6日(月)

4日間限定で三井ショッピングパークカード(クレジット機能付き・なし共に)通常より1ポイントアップ!

☆デジタル虫とり体験アトラクション「バグズハンター」

4月27日(土)～5月6日(月)

☆「2BUY OFF」「ワゴンセール」「キッズセール」

4月26日(金)～5月6日(月)

※イベントは予告なしに変更となる場合があります

【問い合わせ】アルカキット錦糸町 Tel.03-3829-5656



#### 新日本フィルハーモニー交響楽団

#### SMBC presents 大人のためのコンサート 「祝・新元号【令和】記念コンサート」

忙しい毎日を過ごす大人が自分のために過ごす音楽の時間。新元号記念として皇室にちなんだ名曲を演奏する。



指揮：円光寺 雅彦

ナビゲーター：好本 恵  
(元HNKアナウンサー)

【日時】6月24日(月)午後3時

【会場】すみだトリフォニーホール

【曲目】ヘンデル 組曲「王宮の花火の音楽」序曲、ハイドン「皇帝」、  
團伊玖磨「祝典行進曲」、山本正美「ねむの木の子守唄」ほか

【チケット】一般3500円(墨田区在住・在勤・在学は3000円)

【問い合わせ】新日本フィル・チケットボックス Tel.03-5610-3815

## 2019年 錦糸公園桜まつり開催

「錦糸公園桜まつり」(3月23日～4月14日、主催：錦糸公園桜まつり実行委員会)は皆様のご協力のもと無事に開催終了しました。今回も多くの方がお花見に訪れて大盛況となりました。運営協力および協賛いただいた方々に心より御礼申し上げます。



期間中は、散歩や弁当持参で多くの方が花見に訪れた



「ものまねプロ野球」のそっくりさんたちがクリーンナップボランティアとして登場した

## Special Thanks

### 【共催】

錦糸1丁目町会、錦糸三和町会、太平1丁目町会、太平2丁目町会、太平3丁目町会、太平4丁目町会、江東橋1丁目町会、江東橋2丁目町会、江東橋3丁目町会、江東橋4丁目町会、江東橋5丁目町会、アルカハビタ自治会、アルカファイブ自治会、プリリアタワー東京自治会

### 【後援】

墨田区、一般社団法人墨田区観光協会、東京商工会議所墨田支部、錦糸町を元気にする会

### 【協賛】※五十音順、敬称略

アルカキット、アルカタワーズ、キャリアバンク、錦糸町料飲組合、錦糸町プラザ、錦糸町を元気にする会、墨田区観光協会、そばの里みつまさ、テルミナ、東京楽天地、東京東信用金庫、東武ホテルレバント東京、人形焼山田家、フウガドールすみだ、丸井錦糸町店、三井住友銀行、ものまねプロ野球、よみうりカルチャー、ロッテシティホテル錦糸町

## 錦糸町の

# 語り部たち

町の重鎮に聞く土地の記憶

## 第2回(前編)



廣田 達夫さん(75)

(廣田硝子株式会社代表取締役  
有限会社ヒトグラフィック社長)

※このコーナーでは昭和から平成にかけて錦糸町の変化を見てきた町の重鎮の方々に思い出を語ってもらいます。第2回は廣田硝子株式会社・廣田達夫さんのお話です。

——創業120年を誇るガラス製品会社として錦糸町北口で長く商売を続け、江戸切子の専門店「すみだ江戸切子館」も経営しておられます。廣田社長は何代目になりますか。

廣田:ガラス製品の商売は祖父が明治32年(1899年)に始め、私は三代目になります。新潟県燕市の農家次男だった祖父は、明治20年代に神田のランプ問屋に奉公に出ます。会社ではランプのホヤ(電球を覆うガラス製の筒)以外に食器類も取り扱い、ランプ照明の衰退とともにガラス食器販売に軸が移っていきました。「廣田硝子店」として独立したのが明治32年、当時明治政府の官営ガラス工業所があった品川周辺にガラス業者が集まっていたため、芝に店を構えました。大正4年ごろになると同業者の多い錦糸町に拠点を移し、横川に「江東硝子工業所」を建てました。この工場が関東大震災と太平洋戦争で二度にわたる壊滅的な被害を受けたため、以後販売を中心に展開することになりました。

——江戸切子との関わりも教えてください。

廣田:切子は江戸時代から伝わるガラス工芸の技術ですが、江戸切子が東京都の伝統工芸品として認定された1985年より少し前は、カットガラスの職人が減少し、仕事を依頼する側としても技術が途絶える可能性に危機感を抱いていました。様々なかたちで切子を使うことを考える中で色を被せたガラスに繊細な模様をつけて製品にしたところ大変人気が出ました。江戸時代から続く工芸技術としての側面を強調することは、ある女性雑誌から取材を受けた時に「伝統的な技術」として紙面で紹介されたことがきっかけです。2002年には国の伝統的工芸品にも指定され、職人たちが作る東京カットガラス工業協同組合(現在は江戸切子協同組合)は2007年に「江戸切子」で地域団体商標を取りました。東京スカイツリー開業時は江戸切子に関連する様々な仕事に関わり、ソラマチ商店街の店舗看板や「すみだ まち処」の照明などは当社で担当しました。

(2019年3月5日取材)

